



宮崎大学

University of Miyazaki

～世界を視野に 地域から始めよう～

報道発表

令和5年4月5日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（3月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

宮崎大学最近のトピックス（令和5年3月分）

1. 第86回 宮崎大学イブニングセミナーを開催
2. 宮崎大学一般選抜（前期日程）に1,782人が出願
3. 宮崎市中心市街地での街市で宮大オリジナル商品を販売
4. 綾町と宮崎大学・南九州大学連携事業年次報告会を開催
5. 門川町との連携事業年次報告会を開催
6. 令和4年度第3回宮崎大学FD / SD研修会を実施
7. 野球を通じた国際交流～ WBC チェコ共和国代表と親善試合を実施 ～
8. いちたにななさんが宮崎大学長を表敬訪問
9. 女子高校生のためのサイエンス体験講座を実施
10. アニメ「ドラゴンボール」公式サイトで紹介
～ スカウターはなぜ爆発するのか？工学部川末教授が解説 ～
11. 令和4年度 宮崎大学教員教育活動表彰式を開催
12. 4名の女性研究者に奨励賞を授与
13. 学生・教職員にアクセシビリティリーダー2級認定証を授与
14. 『とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム』表彰式を実施
15. みやざき未来研究所 第10回「未来のものづくり」を実施
16. 都農町寄附講座中間報告会を開催
17. 令和4年度宮崎大学卒業証書・学位記・修了証書授与式を挙行政
18. 宮崎大学・西都市・地域企業が連携した人道支援
～ アフガニスタン人元留学生3名の就職先が決定 ～
19. 受験生の宿泊先確保に多大な貢献
～ 宮崎県ホテル旅館衛生同業組合様に感謝状を贈呈 ～
20. 日本衛生公社宮崎様から寄附をいただきました

1. 第 86 回 宮崎大学イブニングセミナーを開催

令和 5 年 2 月 20 日（月）、第 85 回目となる宮崎大学イブニングセミナーを、Zoom を利用したオンライン形式で開催し、一般の方や中学生・高校生 84 名が参加しました。



本セミナーは、本学各部局に在籍する研究者が、各分野での研究内容やその研究成果等を理解し、協働した教育・研究等を実施する契機とするとともに、地域の皆様と本学の知的資源を共有し、地域社会との連携を一層深めることを目的に実施するもので、2004 年 3 月に第 1 回目が開催されていて、今年は 18 年目を迎えます。

今回は、宮崎大学が文部科学省による「第 4 期中期目標期間（令和 4 年度～令和 9 年度）における国立大学法人運営費交付金」を用いた事業の一つとして「宮崎県の健康寿命日本一」を目標に掲げ、医学部を中心とした学部間連携で総力を挙げ、県民の健康増進を目指すプロジェクトである「分野横断体制でとりくむ循環・運動器疾患の克服による健康寿命の延伸」の中心となる基礎医学から臨床医学までのスペシャリスト 4 名が発表しました。（発表者とテーマは以下のとおり）

発表者：

- ① 渡邊 望（医学部教授）：「今日から考える心臓病の予防：健康な未来のために知っておくべき基礎知識と最新医療事情」
- ② 古川 貢之（医学部教授）：「心不全パンデミックにおける体に優しい心臓外科治療」
- ③ 海北 幸一（医学部教授）：「血栓予防薬の効果を判定する新しいモニタリングシステム」
- ④ 西山 功一（医学部教授）：「血管を新しく作るしくみの理解と医療への応用」

2. 宮崎大学一般選抜（前期日程）に 1,782 人が出願

令和 5 年 2 月 24 日（金）、宮崎大学一般選抜試験の前期日程が始まりました。

令和 5 年度の本学前期日程の総募集人員 605 名に対して、1,782 名（前年度 1,712 名）が志願し、志願倍率は 2.9 倍（前年度倍率 2.8 倍）となりました。

本年度の前期日程試験は、本学から車で約 10 分の場所に位置する「ひなたサンマリスタジアム宮崎」で合宿をしているワールドベースボールクラシ



ック（WBC）日本代表チームと福岡ソフトバンクホークスとの壮行試合が重なったことから、ホテルの確保等で受験生や保護者の皆様方には色々のご苦勞をかけたことと思います。

このような状況の中で、宮崎大学へ出願し、受験にお越しいただいた受験生並びに保護者の皆様方に心から感謝申し上げます。また、受験生が安心して試験に臨むことができるようにご尽力いただいた宮崎県、宮崎県ホテル旅館生活衛生同業組合様、梅田学園様をはじめとする多くの関係者の皆様にも心から感謝申し上げます。

なお、合格発表は、3月8日（水）に大学ホームページで行います。

3. 宮崎市中心市街地での街市で宮大オリジナル商品を販売

令和5年2月25日（土）、宮崎市中心市街地にある若草通アーケード内で開催される「街市」で、宮崎大学オリジナル商品である「青島せんべい宮崎大学オリジナルパッケージ」や「宮崎大学のお米」などを販売しました。

2月17日（金）から2月27日（月）にかけて、ひなたサンマリスタジアム宮崎においてワールドベースボールクラシック（WBC）日本代表合宿が実施されていて、25日（土）は日本代表とソフトバンクホークスが壮行試合を実施していて、市街地は多くの観光客の皆さんが行き交うなかでの販売となり、新商品の「青島せんべい宮崎大学オリジナルパッケージ」は30箱以上を



購入していただきました。

宮崎大学では、若草通りアーケード内にある「宮崎大学まちなかキャンパス」を拠点に、今後も中心市街地の更なる盛り上げに貢献して参ります。

4. 綾町と宮崎大学・南九州大学連携事業年次報告会を開催

令和5年3月2日（木）、「令和4年度綾町と宮崎大学・南九州大学連携事業年次報告会」を綾ユネスコエコパークセンターで開催し、靱田綾町長をはじめ、約40名が参加しました。

本報告会は、ユネスコエコパークに登録された同町の豊かな自然生態系を守るために、綾町と両大学が連携して調査・研究を行うことを主な目的として、平成28年9月15日に包括的連携協定を締結したことをきっかけに開始したもので、毎年度3月上旬に開催しています。会では、宮崎



大学及び南九州大学の各事業の担当教員が事業の進捗状況や成果の報告を行いました。宮崎大学では、県内各地の市町村や県内の大学と連携しながら、地域課題の解決に資する連携事業を展開することで、これまで以上に活力のある地域づくりに貢献していくこととしています。

5. 門川町との連携事業年次報告会を開催

令和5年3月3日（金）、「令和4年度門川町・宮崎大学連携事業年次報告会」をオンラインで開催し、山室門川町長をはじめ約30名が参加しました。

本報告会は、同町の自然生態系調査などに連携して取り組むとともに、地域の魅力発信などを通して地域活性化に寄与することを主な目的として、平成29年6月5日に包括的連携協定を締結したことをきっかけに開始したもので、各連携事業の進捗状況や成果の報告を行いました。

宮崎大学では、今後も門川町と緊密に連携を取りながら事業を継続的に実施し、農学分野のみならず、観光・教育・防災・人材育成面などにおいても連携を深化させ、地域の魅力を若い世代に伝え、地域のリーダーの育成にも貢献していくこととしています。



6. 令和4年度第3回宮崎大学FD / SD研修会を実施

令和5年3月3日（金）、330記念交流館（木花キャンパス）においてFD / SD研修会を実施し、約50名の教職員が参加しました。

FD / SDとは、「Faculty Development / Staff Development」の略で、本研修会は、教職員の教育力向上などを目指して実施するもので、毎年定期的に行っています。

今回は、大手保険会社の上原淳氏が講師を務め、「社会で活躍する人材を育てる ～社会人基礎力の養成～」と題して、学生のうちから社会人としての基礎力を養うことの重要性などが説かれました。



7. 野球を通じた国際交流～ WBC チェコ共和国代表と親善試合を実施 ～

令和5年3月4日（土）、宮崎大学硬式野球部と宮崎サンシャインズは、ワールドベースボールクラシック（WBC）に出場するチェコ共和国代表と親善試合を行いました。

チェコ共和国代表は、ヨーロッパ予選を勝ち抜き、WBC一次ラウンドで侍 JAPAN（日本代表）が対戦する相手で、3月2日から7日にかけてひなた宮崎県総合運動公園内で合宿を行っていて、チェコ代表チームに同行する田久保賢植氏が、これまで宮崎大学公開講座などで講師を務めていたことなどが縁で、親善試合が実現。序盤から強力なチェコ打線に圧倒されましたが、宮崎大学打線も相手投手に2連打を浴びせるなど健闘しました。主務を務める中村翔空さん（農学部応用生物科学科2年）は、「十分に力を発揮することはできなかったが、これまでの大学生活で一番刺激的な時間でした」と、充実した様子でした。

宮崎大学では、新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延する以前の2018年と2019年に、台湾遠征を行い、台湾映画「KANO 1931 海の向こうの甲子園」で有名で台湾野球のルーツとなっている嘉義大学などと親善試合を行い、野球を通じて学生の国際感覚を育成してきました。また、新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延して、厳しい行動制限下となった2020年度からは、国際協力機構（JICA）をはじめとする海外で野球普及・強化などに携わる機関と連携しながら公開講座「世界の野球事情」をオンライン形式で発信し、これまで35回実施するなど、野球を通じて海外に目を向けてもらう取り組みを進めてきました。



8. いちたにななさんが宮崎大学長を表敬訪問

令和5年3月7日（火）、宮崎大学広報特派員を務めるいちたにななさん（地域資源創成学部4年）が鮫島浩学長と佐藤一仁事務局長を表敬訪問しました。

いちたにさんは、シンガーソングライターとして活動しながら、現在もラジオパーソナリティ、プロサッカーチーム「テゲバジャーク宮崎」のスタジアムDJとして活躍しています。また、宮崎大学広報特派員として、紹介映像のナレーターを務めたり、宮崎大学を訪問する中高生の対応に尽力したほか、「宮崎・学生ビジネスプランコンテスト」では、2年連続して司会を務めるなど、本学に多大な貢献をしていただきました。

いちたにさんからは、「卒業後はフリーランスとして色々なことに挑戦し、宮崎をもっと盛り上げることができるように頑張っていきたい」と抱負が述べられ、鮫島学長からは宮崎大学への貢献に対して謝辞が述べられました。

いちたにさんの今後の更なるご活躍を期待します。



9. 女子高校生のためのサイエンス体験講座を実施

令和5年3月7日（火）、8日（水）の2日間に渡り、宮崎県内の高等学校に在学している1・2年生の女子生徒を対象とした「女子高校生のためのサイエンス体験講座」を実施し、約120名が参加しました。

本講座は、ロールモデルとのふれあいや実験を通じ、理系への進路選択や「研究者」という職業について知る機会を提供する取組みとして2010年度から実施しており、これまでに100プログラムを提供し、延べ約1,000名に参加いただいています。

今年度は、5講座のプログラムを開講し、95名の女子高校生がそれぞれのプログラムを体験しました。

また、定員超過により参加が叶わなかった高校生を対象とした「女子高校生のための宮大まるごと体験会」も合わせて実施し、21名の女子高校生が参加しました。

「女子高校生のための宮大まるごと体験会」では、キャンパス見学を行なった後に大榮薫准教授（工学部工学基礎教育センター）と平田令子准教授（農学部森林緑地環境科学科）の



研究室を訪問。その後も現役女子大学生との交流や山子剛准教授（工学科機械知能工学プログラム）が開発した、遊びながら楽しくロコモを予防・改善するロボットシステム「LOCObOT®（ロコボット）」体験、渡邊望教授（医学科機能制御学講座循環動態生理学分野）との意見交換など盛りだくさんの内容となりました。

参加した女子高校生からは、「これまで自分の進路選択になかった分野のことを知ることができてとても有意義な時間だった。最初は不安だったが参加してよかった。」といった感想がありました。

10. アニメ「ドラゴンボール」公式サイトで紹介～ スカウターはなぜ爆発するのか？工学部川末教授が解説 ～

大人気アニメ「ドラゴンボール（DRAGON BALL）」公式サイトにおい



て、工学部川末教授がアニメで描かれたスカウターを研究者の視点で解説し、紹介されました。

約30年前にドラゴンボールの世界で描かれたスカウターは相手の戦闘能力を測る装置でした。本学工学部川末紀功仁教授を中心とする研究グループが、AI（人工知能）とAR（拡張現実）



技術を駆使して開発した装置は「豚の体重」を瞬時に可視化する「豚の体重が見えるめがね」です。この二つは数値化されるものが「戦闘能力」と「豚の体重」の違いはあるものの、「豚の体重が見えるめがね」は、ある意味ドラゴンボールの世界において、ベジータやフリーザが使用していたスカウターそのものといえるでしょう。

今回は、そのような縁で、工学部川末教授がスカウターを専門家の立場から解説していますので、ご覧いただければ幸いです。

11. 令和4年度 宮崎大学教員教育活動表彰式を開催

宮崎大学では、教育活動において顕著な業績をあげた教員を表彰することにより、その教授法や教育実践を本学の教員が共有し、教育の改善や質の向上を図ることを目的とした「宮崎大学教員教育活動表彰」を行っています。8回目となる本年度は、3人の教員の表彰を決定いたしました。(表彰式は3月13日(月)に開催されました。)



表彰された教員は以下3名。

教育学部 尾之上 高哉 准教授
医学部 河野 文彰 講師
工学教育研究部 菅本 和寛 准教授

12. 4名の女性研究者に奨励賞を授与

令和5年3月15日(水)、地域デザイン棟において「令和4年度宮崎大学女性研究者奨励賞」の表彰式が執り行われました。令和4年度の表彰者は下記の4名で、いずれも研究業績部門での表彰となりました。農学工学総合研究科博士後期課程3年 登島 早紀 さん



研究内容：日本在来野生種ナワシロイチゴのラズベリー育種への利用に関する研究

農学工学総合研究科博士後期課程1年 NICHAWEE JONGSAWATSATAPORN さん

研究内容：Evaluation of functional chemical components and radical scavenging activity in Thailand foods

医学部医学科 高月 英恵 助教

研究内容：試験管内プリオン増幅法を用いたプリオン病治療薬開発への取り組み
教育学部 志々目 由理江 講師

研究内容：柔道選手における運動間に行う短時間の前腕筋群へのアイシングが把持筋持久力に及ぼす影響

表彰式は鮫島学長、明石理事(人事・基金・SDGs担当)、伊達理事補佐(男女共同参画推進担当)、山内農学工学総合研究科長、藤井教育学部長など関係者出席のもと行われ、

鮫島学長からは、「平成20年度に始まった本賞では、受賞者の多くが学内外の研究者として羽ばたいている。皆さんもこれまでの研究成果を生かし、さらなる活躍を期待しています。」と期待を込めた温かいエールが送られました。

表彰後には、各表彰者が表彰対象となった研究の概要を紹介する時間も設けられ、関係者が熱心に耳を傾けていました。なお、アメリカ留学中のため表彰式参加が叶わなかった登島早紀さんからも、事前録画により喜びの声と研究紹介を提供いただきました。

平成20年に制定された本賞は、この賞は女性研究者の研究の質及び研究への意欲の向上を目的に、独自の研究能力を有する女性研究者を表彰するもので、これまでに約30名の教員、大学院生が表彰を受けています。

13. 学生・教職員にアクセシビリティリーダー2級認定証を授与

令和5年3月16日（木）、アクセシビリティリーダー2級認定試験に合格した学生・教職員に認定証が授与され、新地辰朗理事（教育・学生支援担当）から、多様な分野におよぶアクセシビリティを学んだ意欲への称賛と今後の大学内外での活躍への期待の言葉が贈られました。



宮崎大学では、令和2年度にアクセシビリティリーダー育成協議会に加入。令和3年度から学生・教職員に広く受講の案内を行い、令和3年度17人（学生13人、教職員4人）、令和4年度25人（学生16人、職員9人）が合格し、認定を受けました。今回の授与式では、令和3、4年度合格者の中から、8人の学生・教職員が出席しました。

今回認定証の授与を受けた学生・教職員の受講のきっかけは「多様な学生さんと接し、支援していく上で、仕事に還元していきたいと思って受講した（学生支援部門担当職員）」、「数学や物理を専門に学んできたが、専門以外の分野も学ぶことで一定の価値観にとらわれないうようにしたかった（工学部学生）」など様々で、今回の講座を通じて「看護という職業に役に立つと思って受講したが、実際には普段の生活の中にも役立つ場面が多くあることを知った（看護学科学生）」、「何かに気付く力を養い、それにより子どもを取り巻く環境を良い方に変え、誰もが居場所を見いだせる空間を作れる教師を目指したい（教育学部学生）」と、感想が述べられました。

14. 『とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム』表彰式を実施

令和5年3月16日(木)、2022年度『とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム』表彰式を行い、特に優れた3組に鮫島浩学長から表彰状が手渡されました。



このプログラムは将来、社会でリーダーとして活躍する宮大生の企画力や実践力を高めることを目的に、学生が興味・関心を掘り下げたプログラムを企画し発表するもので、選考を経た8組から更に、成果発表会（令和5年2月28日開催）のポスターセッションでの最終選考を経て、3組が選ばれました。

最高賞となる学長賞は、スマート農業の推進を目指したプロジェクトである『農薬散布ロボット“Mister King”～マンゴーを護れ!!害虫殲滅作戦～』が選ばれ、優秀賞には、農学工学総合研究科・農学研究科・農学部で構成された『ひむかの水辺のSDGs体験！宮大生が作るサステナブル水族館』、教育学部・工学部の学生で構成された『飛び出せ！ドラマティックリーディング～扉の向こうは宮崎軒～』が選ばれました。

学長章を受賞したプロジェクトのメンバーは、工学部・農学部・地域資源創成学部の数名の学生で構成され、農家のニーズに沿った農薬散布ロボットの開発プロジェクトとして、実際に市内の果樹園で評価試験を行っていて、既存のロボットにはなかった効率的な散布方法を実現して、将来性のある活動であることが高く評価されました。

15. みやざき未来研究所 第10回「未来のものづくり」を実施

令和5年3月17日(金)に実施した第10回は「未来のものづくり」と題して本講座のコーディネーターである脇氏のほかに、RDS代表の杉原行里氏をお迎えして参加者と「ものづくり」について意見交換をしました。



杉原氏は、車いすは障がいのある人だけのものなのかということをも自分事として考えると、よりカッコよくて座り心地のいいものが欲しいと思うのではないか。これからは、一人ひとりに最適化されたものづくり、サービスが求められることなどをお話しされました。参加者との意見交換では、アイデアをより早く形にするために重要なことについてなど活発に意見が交わされました。

参加者との意見交換では、アイデアをより早く形にするために重要なことについてなど活発に意見が交わされました。

今回は、最終回という事で、これまで10か月に及ぶ全10回の講座の振り返りもありました。参加者からは「各テーマ具体的な事例が示されるので、ますます興味のわく講座だった。」「グループワークで普段関わることのない人と話をするのはとても楽しく、良い刺激になった。」との声がありました。

16. 都農町寄附講座中間報告会を開催

令和5年3月22日(水)、令和2年4月に宮崎大学に設立された都農町寄附講座が中間報告会を都農町ビジターセンターにて開催。河野町長をはじめ町内関係者が16名、大学関係者は学長はじめ15名が会場に参加したほか、15名のオンライン参加がありました。

寄附講座は地域資源創成学部の地域経営学講座、医学部の地域包括ケア・総合診療医学講座の2講座にて開設されており、それぞれ3年間の町内での活動について各講座教員より報告がありました。



地域経営学講座の瀬川直樹准教授からは、3年間の学部生都農町来訪者数が令和2年度の29人から4年度は284人に増加し、学部生のほぼ全員が一度は都農町で学ぶ授業体制ができていることの説明がありました。授業実習内容のほか、町内でのインターンシップや学生の主体的な課外活動について紹介され、学生の学びの成果であるポスターや地域資源マップなども会場内に掲示されました。最後に桑野地域資源創成学部長より今後の方針として、都農学の可視化への取組や医学部との連携による健康まちづくりへの寄与などが挙げられ、これらの活動を通じて地域の未来を担う人材輩出をめざすという講座の展望が説明されました。

地域包括ケア・総合診療医学講座の桐ヶ谷大淳准教授は、長期実習生や研修医の受入れ状況や、地域実習における地域全体を俯瞰する多様なニーズに対応できる人材養成について説明しました。また3年間の成果として、町内在宅看取り数の0から30への増加や、コロナ病床の受入れ体制が挙げられました。今後の方針としては、町立病院のコミュニティホスピタル体制化や、都農をまるごとケアするまちづくりへの関与など地域活動の強化が示されました。

今回の報告会では寄附講座に加え、今年度の受託研究である2研究プロジェクト(※)の報告がありました。医学部有村保次特別教授からは健康まちづくり調査について、今後各寄附講座との連携による成果のさらなる解析や研究の発展可能性が、また清花アテナ男女共

同参画推進室清水副室長からはダイバーシティプロジェクトについて、来年度の小学生保護者や役場研修への展開などがそれぞれ言及されました。

河野町長は閉会挨拶で、それぞれの報告への講評と共に、「ふるさと納税の究極の返礼品として大学と町との寄附講座の取組みが全国のモデルとなるよう、各々の歩みを進めてほしい」と述べられました。

宮崎大学は、寄附講座を通して都農町と共に相互発展していけるよう教育研究を進めて行くこととしています。

17. 令和4年度宮崎大学卒業証書・学位記・修了証書授与式を挙

令和5年3月24日（金）、宮崎市のフェニックス・シーガイア・リゾートシーガイアコンベンションセンター4Fサミットホールにおいて、令和4年度宮崎大学卒業証書・学位記・修了証書授与式を挙



式を挙し、学部学生や大学院生ら計 1,242 名（うち外国人留学生 36 名）が新たな旅立ちの春を迎えました。

式では、卒業生を代表して、医学部看護学科の大塚さくらさんから、「新型コロナウイルス感染症流行時には今後の見通しが定まらないなかで迅速な対応をしてくれ、制限があるなかでも充実した学生生活を送ることができた。この4年間で学んだことを誇りに思って将来へ進んでいきたい。これまで支えてくれた先生方、職員の方々、家族、友人、全ての皆さまに感謝する。」と、謝意が述べられ、鮫島浩学長からは、春秋時代の中国の思想家である孔子の言葉「これを知る者はこれを好むものに如かず、これを好むものはこれを楽しむものに如かず」を引用して、「どんな状況にあっても、楽しみながら強靱な精神力で様々なことにチャレンジし、これからの人生を切り開いて欲しい」と、熱のこもったメッセージが学生に贈られました。

なお、本年度の就職内定者（学部卒業生のみ）における県内就職内定率は約 35%（令和5年3月1日時点）となっていて、前年度並みの数字となりました。（*令和元年度学部入学者数 1,066 名のうち、県内高校出身者は 376 名で、入学者のうち約 35%が宮崎県内高校出身となっています。）

18. 宮崎大学・西都市・地域企業が連携した人道支援

～ アフガニスタン人元留学生 3 名の就職先が決定 ～

令和 5 年 3 月 27 日（月）、宮崎大学（鮫島浩学長）は、西都市（橋田和実市長）、株式会社 SE ミート宮崎（有田米増代表取締役社長）およびオカザキフード株式会社（幸野喜一郎代表取締役社長）と合同で、宮崎大学に在籍していたアフガニスタン人元留学生（以下、元留学生）の支援に係る記者会見を行いました。



アフガニスタンでは、2010 年頃まで続いた紛争の影響により、省庁において開発を推進する中核人材が大きく不足していました。そのような状況で、国際協力機構（JICA）が主導する「未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト Project for the Promotion and Enhancement of the Afghan Capacity for Effective Development（通称：PEACE プロジェクト）」が 2011 年から開始され、その事業の一環で、宮崎大学では 42 名のアフガニスタン国内の政府系機関・大学・研究所等で勤務する職員を農学系分野（農学研究科、医学獣医学総合研究科等）で留学生として受け入れてきました。その数は、農学系分野においては国内トップクラスの受入数です。

しかし、2021 年に前政権が崩壊し、反政府勢力が政権を握ると、宮崎大学で学んだ経験のある一部の元留学生は窮地に追い込まれ、日々の生活が厳しくなっていったため、恩師である同大学農学部教授らを頼り、日本への出国を決意することとなりました。これを受け、國武久登農学部長が中心となり人道的な観点から元留学生たちを 1 年間の期限付きの研究員として、大学予算、農学部教員や外部からの寄附などを財源に、家族を含めた 7 世帯を受け入れることとしました。

一方で 1 年を超えて宮崎大学で雇用することは財源も不足するため限界があります。元留学生は研究活動を行う傍ら、宮崎大学国際連携センターが主導して日本語や日本文化の学習支援を受けながら、企業などに就職して日本国内に定着することをゴールに奮闘してきました。また、國武久登農学部長を始め、5 名の指導教員（獣医学科大澤健司教授、獣医学科平井卓哉教授、附属フィールド科学教育研究センター小林郁雄准教授、植物生産環境科学科安達鉄矢准教授、附属フィールド科学教育研究センター松尾光弘講師）が県内外の企業等を駆け巡り、と元留学生の雇用について協議するとともに、他大学と連携してクラウドファンディングなどで寄附などを集めて財源確保に奔走してきました。

2022 年 11 月に西都市の企業（株式会社 SE ミート宮崎）がハラル認証の食肉処理施設の建設を予定していたことから、國武農学部長が橋田西都市長に相談。宮崎大学農学部・農学研究科 OB でもある橋田市長は、西都市としても何らかの形で支援していくことを約束するとともに、今回受け入れていただくことになった 2 社の代表との協議を仲介していただきました。これを受け、SE ミート宮崎（有田牧畜産業 有田社長・オカザキフード 幸野社長）、

宮崎大学農学部及び西都市で協議を重ね、有限会社有田牧畜産業が2名、オカザキフード株式会社が1名の受け入れることとなり、2023年4月1日から就労することとなりました。

西都市長からは、「元留学生の方々に対して、生活がスムーズに行えるように温かく歓迎します。安心して穏やかに生活ができるように市全体でサポートしていきたい」と力強いお言葉をいただき、有田社長（株式会社 SE ミート宮崎）からは、「2024年にハラール認証の食肉処理施設を設立し、イスラム圏へ宮崎牛の輸出を目指している。これまでの高度な知識や経験を存分に発揮し、新たな実務経験を積み、自分たちの和牛にかける想いを世界に発信してもらいたい」と、期待の言葉をいただきました。

元留学生は、西都市が手配した西都市内の市営住宅に令和5年3月下旬に転居を完了しており、「建物からは西都市内が一望でき、近くには色んなお店やバスセンターもあって非常に便利」、と住環境に満足している様子で、「どんな状況でも常にポジティブ（前向き）であることで、自分たちが必ず会社に貢献できるようになると信じている」と新たな職場での決意を誓いました。また、元留学生の指導教員の一人である小林郁雄准教授は、「受け入れ当初は前例がなく戸惑った部分もあるが、ここまでくることができた。これからがスタート。同様の人道支援を行っている大学があり、今回の事例が全国的に波及して欲しい」と期待を込めました。

19. 受験生の宿泊先確保に多大な貢献

～ 宮崎県ホテル旅館衛生同業組合様に感謝状を贈呈 ～

令和5年3月28日（火）、宮崎大学前期日程試験における受験生の宿泊先確保に多大な尽力をいただいた宮崎県ホテル旅館衛生同業組合様に対して、鮫島浩学長から感謝状を贈呈しました。

令和4年11月に決定したワールドベースボールクラシック（WBC）「侍 JAPAN」の宮崎合宿（2/17



～2/27）は、2月25日（土）・26日（日）に行われた壮行試合が宮崎大学前期日程試験と重なり、受験生の宿泊先確保が困難になることが予想されました。そのため、本学関係者が宮崎県ホテル旅館衛生同業組合様に相談したところ、同組合が県内各地のホテルなどに呼びかけ、多くの部屋を本学の受験生向けに確保していただきました。

宮崎県ホテル旅館衛生同業組合の有田組合長から、「2月はキャンプシーズンにより県外から多くのお客さんが訪れるため繁忙期を迎えるが、これまでも受験生を最優先にしてき

た。今回は、関係者の皆様のおかげで大きな混乱がなかったことに正直ホッとしている」と述べられ、鮫島浩学長からも心からの謝意が伝えられました。

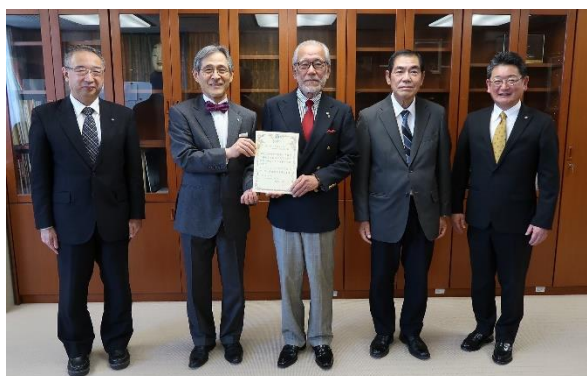
試験当日は、前年度よりも多い1,782名（前年度1,712名）が志願し、志願倍率は2.9倍（前年度倍率2.8倍）となり、受験生及び保護者等の帯同者を含め約1,000名以上が宿泊施設を利用したと想定されます。一部、宮崎市以外のホテルに宿泊せざるを得ないケースも発生したようですが、関係の皆様のご協力のおかげで大きなトラブルもなく試験を終えることができました。

受験生が安心して試験に臨むことができるようにご尽力いただいた宮崎県ホテル旅館生活衛生同業組合様と県内ホテル関係者の皆様方には心から感謝申し上げます。また、会社が持つ宿泊施設などを提供していただいた宮崎梅田学園グループ様、シャトルバスの手配などをしていただいた宮崎大学生生活協同組合様、事業所の施設や自宅の空き部屋を開放してもよいと申出くださった心温かい市民の皆様にも、この場を借りて御礼申し上げます。

宮崎大学は、今後も地域の皆様のお力添えをいただきながら、地域に必要とされる教育・研究・地域貢献を行い、県内の中核高等教育機関として輝き続けることができるように努めてまいります。

20. 日本衛生公社宮崎様から寄附をいただきました

令和5年3月29日（水）、株式会社日本衛生公社宮崎（本社：宮崎市、菊池光信代表取締役）様から宮崎大学基金に寄附をしていただいたことから、鮫島浩宮崎大学長から菊池光信代表取締役に感謝状を授与させていただきました。



日本衛生公社宮崎は、約50年の歴史を持ち、清掃や貯水槽清掃・害虫駆除など、

ビル総合管理業務を専門としている会社で、お客様にクリーンで快適な環境を提供し、社会貢献に寄与することを目指しています。授与式では、菊池代表取締役から「人づくりは教育から。是非、有効活用していただければ幸いです」と、温かいお言葉をいただきました。

宮崎大学では、今後も地域企業や自治体などの皆様方の協力を得ながら、学生の教育・研究・社会貢献活動の支援を行うとともに、将来の宮崎を担うたくましい人材の育成に努めてまいります。